



国家存続の危機を乗り越える憲法を目指して（党声明）

令和4年5月3日

幸福実現党

本日、75回目の憲法記念日を迎えました。戦後、憲法は一度も改正されることなく今に至ります。私たちは、憲法は国家の理念を表すものであると考えます。世界情勢が大きく変わる今、日本は憲法を改正し、国のあり方を見直す必要に迫られています。

無神論国家・中国は苛烈な人権弾圧を行い、周辺国を呑み込もうとしています。中国の脅威が迫るなか、岸田首相はロシア・ウクライナ戦争において、大局観なくウクライナに肩入れし、ロシアには経済制裁を行いました。その結果、ロシアと軍事的に敵対し、ロシアは北海道周辺で不穏な動きを続けています。両国と歩調を合わせるように北朝鮮もミサイル発射を繰り返しています。現在の日本は、三つの核保有国と対峙しなければならない最悪の状況に陥りました。

世界も混沌とした状況にあります。米国やEUがこれ以上ロシアを追い込めば、核を使った世界大戦へと発展する可能性も高まっています。ロシアが軍事的にも中国との結びつきを強めれば、現在の日米ではもはや太刀打ちできず、世界の勢力図は大きく変化します。現状を直視するならば、世界各国で戦争が起き、日本もいつ戦場になってもおかしくないのです。

まさに国家存続の危機にありながら、現政権はこれを十分に認識せず、思考停止に陥っています。反撃能力の保有や5年以内の防衛費倍増といった自民党提言では、とても日本を守り抜けません。

私たち幸福実現党は、交戦権を否定した憲法9条を抜本的に改正し、自衛隊を国家と国民を守るために戦うことができる国防軍にすべきだと考えます。悪意ある国に核を使わせないためにも、自前の核装備の議論も待たなしです。自虐史観に基づいて「日本さえ爪を切っておれば、牙を抜いておけば、世界平和になる」というような思想では、日本の平和も世界の平和も護れない時期が来ているのです。

むしろ日本は、混迷する世界において、真の平和と繁栄を実現させるリーダー国家としての役割を果たさねばなりません。そのためには、何を善とし何を悪とするかという「世界的正義」が不可欠です。その世界的正義を教えるのは、国家や民族を超えた神の教えです。

現行憲法は、政治と教育から宗教を遠ざけ、宗教を日陰の存在へと追いやりました。しかし本来、宗教は国家の背骨、「精神的支柱」となるべきものです。幸福実現党は日本に「精神的支柱」を打ち立て、国家存続の危機を乗り越え、世界の平和と繁栄を実現させるために、力を尽くして参ります。

以上